

# EBC(Evidence-based Control)研究会ワークショップ 2019のご案内

## 日時

2019年9月18日(水)10時~17時

## 場所

東京大学農学部1号館2階8番教室(東京都文京区弥生1-1-1)

<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/campus/keiro.html>を参照下さい。東京メトロ南北線東大前駅から徒歩1分

## 参加申し込み

下記事務局に8月23日(金)までに電子メール【宛先:日本植物防疫協会 沼田京太(k-numata@jppa.or.jp)】にてお願いします。申し込みをされた方には講演要旨(PDF)をダウンロードできる方法を電子メールにてご案内します。印刷して当日ご持参ください。

## 参加受付

東京大学農学部1号館2階8番教室(ワークショップ会場)にて受け付けます。参加費および情報交換会費(出席される場合)を徴収させていただきますので、予めご用意をお願いします。

## 参加費

参加費 2,000円(学生, 大学院生は1,000円)

## 情報交換会

東京大学農学部内にあるカフェレストラン「アブルボア」にて17時より開催します。会費は5,000円程度を予定しています。出席ご希望の方は、参加申し込み時にお申し出下さい(定員になり次第締め切らせて頂きます)。

## プログラム

### 10:00 開会

第一部 線形回帰による病害発生生態解明 座長:川口 章(農研機構・西日本農業研究センター)

### 10:10~10:30 「線形回帰と統計モデリングの基礎」

川口 章【(国研) 農研機構・西日本農業研究センター(兼 農業情報研究センター)】

病害の生態解明において統計解析の一つである線形回帰は重要なツールであり、最近研究が盛んな人工知能研究分野における機械学習の基礎でもあります。ここでは人工知能分野と絡めた線形回帰と統計モデリングの基礎を紹介します。

### 10:30~11:00 「一般化線形モデルを活用した病害防除指導の取り組み」

池田 健太郎【群馬県農政部技術支援課】

生産現場では、産地で問題となっている病害への対策として、様々な調査を行いますが、防除につながる有益な情報を抽出できていないように思います。ここでは、一般化線形モデルを活用した解析方法を紹介します。

### 11:00~11:30 「病害虫発生予察調査データを活用したコムギ赤さび病多発要因の検討」

恒川 健太【愛知県農業総合試験場】

コムギのような露地作物は人為的に気象や伝染源量を制御して試験を実施することは困難です。そこで、本演題では病害虫防除所に蓄積された発生予察調査データを一般化線形モデルで解析し、コムギ赤さび病の多発要因を検討した事例を紹介します。

### 11:30~12:30 一昼 食一

## 第二部 招待講演

### 12:30~13:20 「 $\beta$ -クリプトキサンチンの機能性研究と科学的エビデンスについて」

座長:川口 章(農研機構・西日本農業研究センター)

杉浦 実【同志社女子大学】

$\beta$ -クリプトキサンチンは日本のウンシュウミカンに特徴的に多く含まれているカロテノイド

色素で、これまで様々な生体調節機能が明らかになってきました。食品の機能性研究で重要な科学的エビデンスのレベルとその活用方法について紹介します。

13:20～14:10 **平成30年度若手農林水産研究者表彰受賞記念講演**

「キュウリホモプシス根腐病の総合防除対策の確立」

座長:池田 健太郎(群馬県庁)

岩舘 康哉【岩手県農業研究センター】

キュウリホモプシス根腐病に対する防除技術の開発と体系化に取り組みました。ここでは、農業改良普及センターと一体となった現地実証先行型の取り組みにより、総合防除対策の構築と成果普及を迅速に展開した事例を紹介します。

14:10～15:00 「殺虫剤抵抗性管理:高薬量保護区戦略のケーススタディと最近の研究動向」

座長:田代 暢哉(佐賀県上場営農センター)

山本 敦司【日本曹達株式会社】

高薬量保護区戦略は殺虫剤抵抗性戦略の一つです。感受性個体群を利用することから普及にはなお課題がありますが、殺ダニ剤へキンチアゾクス抵抗性管理の研究事例を用いて紹介します。加えて、最近の殺虫剤抵抗性管理の研究動向を総説します。

15:00～15:15 一休 憩一

第三部 ショートトーク1【地域の病害研究】 座長:川口 章(農研機構・西日本農業研究センター)

15:15～15:30 「AUDPC も知らないで、ポーっと生きてんじゃねーよ！」

三宅 律幸 (JA あいち経済連)

15:30～15:45 「タマネギべと病の一次伝染株初発時期の積算温度による推定」

中村 吉秀・江頭 桃子 (長崎県農林技術開発センター)

15:45～16:00 「ブロッコリー黒すす病、イチゴうどんこ病の空間分布解析」

西村 文宏 (香川県農業試験場)

第四部 ショートトーク2【殺菌剤の最新知見】 座長:小河原 孝司(茨城県農業総合センター園芸研究所)

16:00～16:15 「SDHI 剤の概要」

富田 啓文 (日本農薬 (株))

16:15～16:30 「オルフィンフロアブルについて」

戸田 彩香 (バイエルクロップサイエンス (株))

16:30～16:45 「汎用性殺菌剤ピラジフルミド (パレート®) の特長と上手な使い方」

山田 麻貴 (日本農薬 (株))

16:45～17:00 総合討論 (座長:川口 章(農研機構・西日本農業研究センター))

17:00 情報交換会

参加申し込み・問い合わせ先:研究会事務局 日本植物防疫協会 沼田京太([k-numata@jppa.or.jp](mailto:k-numata@jppa.or.jp))

**【お知らせ】**

ワークショップの翌々日の9月20日(金)には、一般社団法人日本植物防疫協会主催のシンポジウム「植物防疫の新たな展開の「その後」をフォローする」(場所:日本教育会館「一ツ橋ホール」東京都千代田区一ツ橋2-6-2)が開催されます